

穂学



令和4年度

広州日本人学校 学校便り

[No13]

令和4年10月10日(月)

発行責任者 校長 加藤康德

「西安市への修学旅行が無事に終了しました。」

9月21日(水)から23日(金)にかけて、中学部2年生による西安市への修学旅行を実施しました。本来であれば北京市へ行く予定でしたが、北京市への修学旅行は現況では難しいのではないかと考えていました。その後検討を重ねた結果、7月に成都市と西安市の可能性も保護者に書面でお知らせをし、夏休みに入る直前に西安市が可能であると判断をして急遽教員を下見に行かせました。出発日の10日前までは西安市が新型コロナウイルスの中リスク地に指定されていたのですが、9月14日の最終保護者説明会に合わせるようにリスク地が解除となり、とても爽やかな季節の中、生徒たちは「大雁塔」「華清池」「兵馬俑」「鐘楼」などを見学し、古都西安市で見聞を広げることができました。



中国においては、現在省外で団体旅行をすることは非常に難しい状況にあります。しかし、今年度も何とか実行できたのは一重に保護者の皆様のご理解とご協力のおかげだと感謝しております。白雲空港から広州市に向かうバスの中で、私の方から「今回の修学旅行はお父さんやお母さんの理解があったから行くことができました。学校を信じてくれてありがとうと家に帰ったら保護者の方に伝えてください。」とお願いをしました。伝わっているでしょうか。

「当たり前が実は当たり前ではなかった。」ということが実感できる現在、何に取り組んでいくにしても「信頼」と「協力」というキーワードは欠かせません。これからもこのキーワードを大切に子ども達の教育を保障していこうと思っております。

次の月曜日、教室を巡回すると中2の生徒たちの顔つきが前と比べて少し大人になったような気がしました。思い出に残る良い修学旅行ができて本当に良かったです。今後も引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

「授業参観・学校保護者会(9/3)のアンケート結果を受けて」

授業参観・学校保護者会を予定通り9月3日(土)に開催いたしました。その時のアンケートの集計が終わりましたので、結果をお知らせいたします。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

※今回は回答者数が少ないようでした。次回はより多くの方のご協力をお願いいたします。

<授業参観の満足度>①満足 ②おおむね満足 ③やや心配 ④不安

	満足←	→心配・不安			(人数)
	①	②	③	④	合計
1. 授業の様子	78名	30名	0名	0名	108名
2. 子どもの様子	58	46名	3名	1名	100名

※小数第2位を四捨五入して表示

○満足度の算出方法

$$\frac{\text{満足 (①②)} - \text{心配・不安 (③④)}}{\text{総数 (108名)}} \times 100 = \text{満足度 (\%)}$$

	満足度		
	1学期	2学期	3学期
1. 授業の様子	96.3%	100%	
2. 子どもの様子	92.0%	92.6%	

※開催時期については、良い（102名） 良くない（6名）という結果になりました。

<自由記述に対する学校側の解答> ※全体に関わる内容のご質問・ご意見について掲載いたします。

- 「保護者の参観人数を1家庭単位ではなく生徒数にしてほしい。保護者1名で3クラスを回るのは厳しい。」
 - 今回の参観日は広州市内の新型コロナウイルス感染状況から「中止」も考えましたが、保護者の人数を平等に少なくすること（予定数の半分）で実施することにいたしました。ご理解ください。
- 「移動しない保護者は教室の中によってもらえると複数の教室を回らなければならない保護者は出入りがしやすい。」
 - 基本的に保護者の方のモラルに頼るしかないので、事前にお知らせをするなどの工夫をしたいと思います。
- 「ロイロノートの使い方がわからないので、使い方の説明書などがあれば良い。」
 - 検討いたします。
- 「中間テストの時期と重なっているのは大変である。」
 - 検討いたします。

<体育委員会が砂袋に砂をいれてくれました。>
 ※この砂袋で運動会テントの支柱を固定させます。



<3年生が広州市のイオンを見学しました。>



<運動会応援団の練習が始まりました。>



<保護者の皆様へのお願いです。>

学校の教育活動は「全て実施する」ことを前提として、「適切な教育内容」を「適切な時期」に配置して計画を立てております。何らかの理由で実施が困難と考えられる場合は「いつまでに判断しなければならないか」ということを見極めながら、①「何か工夫をすれば実施が可能か」→②「延期することが可能か」→③「中止しかないか」という順番で判断をしていきます。早々に「中止」という判断をしてしまうと間違いなく中止になってしまいます。子どもの教育活動を保障するためには多少のリスクを取りつつ、目的達成のためにギリギリの時期に判断を下すということがどうしても必要になります。保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。※本校はなるべくできる限り教育活動を止めることなく回していますが、事情により「中止」という判断をする場合もあります。現在はコロナ禍であるということもご理解ください。